



➤ Annex SL の紹介 Whitepaper

今後全てのマネジメントシステム規格に適用される
新たなハイレベルストラクチャー

Approaching change

概要と背景

長年にわたり ISO は、品質、環境、そして情報セキュリティや事業継続マネジメントに至るまで数多くのマネジメントシステム規格を発行してきました。しかしながら、それらの規格は共通要素を共有しているにもかかわらず、全ての ISO マネジメントシステム規格は異なる構造になっています。これは結果として実装段階での混乱を引き起こし、困難が積みまとうこととなります。

マネジメントシステム規格における構造の重要性を理解するために、私たちは一歩戻って ISO のマネジメントシステムの定義と効果的なマネジメントシステムを取り入れることの利点に目を向けることにします。ISO はマネジメントシステムについて、目標を達成するために組織が準拠する必要がある手順の一つとしてそれを定義しています。マネジメントシステム規格はマネジメントシステムを構築し運用する際に準拠するモデルを提供します。成功したマネジメントシステム規格における利点は、以下の通りです。

- 資源のさらなる活用
- リスク管理の改善
- 製品 / サービスへの期待に沿うことで顧客満足度を向上

なぜ新たなハイレベルストラクチャーが必要なのか？

ほとんどの組織が、1つ以上のマネジメントシステム規格を有しています。それらのマネジメントシステム規格を個別に実装すると、多くの余

計な時間と資源が必要になるため、最善且つ可能な方法で規格を統合し、組み合わせる方法を見つける必要があります。今日までマネジメントシステム規格は、異なる構造、要求事項及び用語を有しており、統合が困難なままです。この問題に対処するために、ISO は、一般的なマネジメントシステムのフレームワークであり、今後の新たな且つ改定された全てのマネジメントシステム規格用のフレームワークである、Annex SL を開発しました。業界特有のニーズに対応するために、個々のセクターのための追加要件がこの汎用フレームワークに追加されます。

どのように組織に影響するのか？

このハイレベルストラクチャーは、一貫性と互換性を確保するために、すべての新規および改定されたマネジメントシステム規格間で展開されます。Annex SL の配置で、マネジメントシステムの履行は、異なるマネジメントシステム規格の構造の結果として起こった矛盾、重複、混乱及び誤解を軽減させることが期待されます。

マネジメントシステムの審査員は、分野や業種にわたる一般的な要求事項のコアセットを利用することになります。

Annex SL についての詳細

今後全てのマネジメントシステム規格は、同一のコアテキストだけでなく、共通の用語や定義、及び共通のコアテキストを持つ同一のハイレベルストラクチャーを所有することになります。ハイレベルストラクチャーは変更することができない一方で、サブ箇条や規格固有のテキストを追加することが可能です。

Annex SL は ISO 規格、公開仕様書 (PAS) と技術仕様書 (TS) など、全てのマネジメントシステム規格に適用されます。新たな ISO 45001 と同様に ISO 9001 及び ISO 14001 の改定版は、全て Annex SL のハイレベルストラクチャーに基づいています。

箇条 1	適用範囲
箇条 2	引用規格
箇条 3	用語及び定義
箇条 4	組織の状況
箇条 5	リーダーシップ
箇条 6	計画
箇条 7	支援
箇条 8	運用
箇条 9	パフォーマンス評価
箇条 10	改善

箇条 1：適用範囲

適用範囲は、マネジメントシステムの意図した結果を規定しています。結果は、業界固有のものであり、組織の状況 (箇条 4) と一致しなければなりません。

箇条 2：引用規格

特定の規格に関連する引用規格または出版物の詳細を提供します。

箇条 3：用語及び定義

関連用語や定義基準に加えて、特定の規格に適用される用語と定義の詳細。

箇条 4：組織の状況

箇条 4 は以下の4つのサブ箇条より構成されます。

- 4.1 組織及びその状況の理解
- 4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解
- 4.3 マネジメントシステムの適用範囲の決定
- 4.4 マネジメントシステム

マネジメントシステムの敷石として、箇条 4 で組織が存在する理由を決定します。この質問に対する回答の一環として、組織は全ての利害関係者やそれらの要求と同様に、意図された成果に影響を与える内部及び外部の課題を決定する必要があります。また、その範囲を文書化し、全てのビジネスの目的に沿ったマネジメントシステムの境界を設定する必要があります。

箇条 5：リーダーシップ

箇条 5 は3つのサブ箇条からなります。

- 5.1 リーダーシップ及びコミットメント
- 5.2 方針
- 5.3 組織の役割、責任及び権限

新しいハイレベルストラクチャーは、従来の規格に定められている「マネジメント」についてだけでなく、特にリーダーシップに重点が置かれています。これは、トップマネジメントが組織のマネジメントシステムにより大きな責任を持つようになったことを意味します。

トップマネジメントは組織のコアビジネスプロセスにマネジメントシステムの要求事項を統合させ、システムがその意図された成果を達成することを確認し、そして必要な資源を割り当てる必要があります。トップマネジメントは、またマネジメントシステムの重要性を伝え、従業員の意識と関与を向上させる責任があります。

箇条 6：計画

箇条 6 は2つのサブ箇条を含みます。

- 6.1 リスク及び機会への取組み
- 6.2 目的及びそれを達成するための計画策定

箇条 6 は、リスクベースの思考を前線へ導入します。組織に箇条 4 で取り上げられているリスク及び機会が存在する場合、計画を通じて、このようなリスクや機会への対処法を規定する必要があります。計画段階では、これらのリスクが何で、誰がどのように、またいつ対処しなければならないかに目を向けます。このプロアクティブなアプローチは、予防処置に取って代わり、後の是正処置の必要性を低減させます。マネジメントシステムの目的に注目されるべき点が置かれていることです。これらは、測定、監視、伝達され、マネジメントシステムの方針に合わせ、必要に応じて更新されなければなりません。

箇条 7：支援

箇条 7 は5つのサブ箇条から構成されています。

- 7.1 資源
- 7.2 力量
- 7.3 認識
- 7.4 コミュニケーション
- 7.5 文書化した情報

状況、コミットメント、及び計画に対処した後、組織は、目標や目的を満たすために必要なサポートに目を向けねばならないでしょう。これは「文書」や「文書化された記録」など、以前に使用されていた用語と置き換わる文書化した情報と同様に、資源や内部及び外部のコミュニケーションが含まれます。

箇条 8：運用

箇条 8 は1つのサブ箇条があります。

箇条 1 運用の計画及び管理

マネジメントシステムの要求事項の大半は、本箇条に存在しています。箇条 8 は、内部と外部に委託するプロセスの両方に対応しています。一方、全体のプロセス管理には、計画的あるいは意図しない変更への管理方法と同様にこれらのプロセスを管理する適切な基準を含んでいます。

箇条 9：パフォーマンス評価

箇条 9 は3つのサブ箇条で構成されます。

- 9.1 監視、測定、分析および評価
- 9.2 内部監査
- 9.3 マネジメントレビュー

ここで組織は、何をどのように、いつ、監視、測定、分析、評価するか決定する必要があります。内部監査は、規格と同様に、組織要件に準拠するためのプロセスの一部であり、正常に履行され、維持されます。最後のステップのマネジメントレビューは、マネジメントシステムが適切かつ有効であるかどうかを調べます。

箇条 10：改善

箇条 10 の2つのサブ箇条では、不適合と是正措置が如何に管理されなければならないかについて目を向けます。

- 10.1 不適合と是正処置
- 10.2 継続的改善

刻々と変化するビジネスの世界では、全てが必ずしも計画通りに行くわけではありません。箇条 10 は継続的な改善のための戦略と同様に、不適合及び是正処置に目を向けます。

➤ 移行を成功させるための5つのキーステップ

今日から移行準備を始めてください。

1 まずは BSI にご相談ください

- 移行施策とタイムラインについて議論してください
- BSI のウェブサイトからダウンロードできるツールやホワイトペーパーをご覧ください

2 BSI のトレーニングコースに参加してください

- BSI のトレーニングコースに参加し、新たな要求事項をより速く、より詳細に理解してください

3 組織内でコミュニケーションを取ってください

- 新たな要求事項について主管部署と討議してください
- 多くの賛同を得るために、組織においてより広範囲に改定に関する情報の伝達をしてください
- 進捗状況を定期的に発信してください

4 内部のプロジェクトチームを設立してください

- 現在のシステムに対する GAP 分析を実施してください
- 導入計画を作成し進捗管理をしてください
- 自社の QMS/EMS について洗い直してみましよう
- リーダーシップ、リスクと組織の状況に関する新たな要求事項を履行してください
- 新しい構造が文書に反映されるように変更してください

5 文書レビューサービス / 移行審査

- BSI では移行審査の前にお客様の改定状況を確認するための文書レビューサービスをご提供しています
- 新たな規格の発行後、新規格への移行審査が適用可能になります

➤ 移行スケジュール



最新情報は下記 Website をご覧ください

<http://www.bsigroup.com/ja-JP/isorevisions/>

bsi.

BSI グループジャパン株式会社

T: +81 (0)3 6890 1172

www.bsigroup.com/ja-JP/



By Royal Charter